

# 令和5年度 浜松市立舞阪中学校 学校評価報告書

## 1 学校教育目標

よく考え 正しく判断し 実行する生徒

## 2 学校経営目標と重点項目

たくましく生きる「自立」、よりよく生きる「共生」を目指した教育の充実  
 (1) 自分や舞阪への誇り (2) 確かな学力 (3) 元気な学校 (4) いのちの教育

## 3 重点目標達成のための取組 ※赤字はR4から変更した部分

(1) 自分や舞阪への誇り	(2) 確かな学力	(3) 元気な学校	(4) いのちの教育
<p><b>1. 生き方教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夢や目標を持ち、自分らしさを探究する学びの場の設定</li> <li>職業・進路講座、未来授業</li> <li>キャリアパスポート</li> </ul> <p><b>2. 個に応じた支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解とニーズの把握</li> <li>活躍の場の設定と認め励ます指導(自己肯定感、自己有用感の醸成)</li> </ul> <p><b>3. 「舞阪に学ぶ」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特性や地域人材を生かしたキャリア講座、授業の実施</li> </ul> <p><b>4. 規律ある学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活につながる生活習慣の徹底</li> <li>自治能力の育成</li> </ul>	<p><b>1. 分かる楽しい授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標の明確化</li> <li>主体的・対話的で深い学びの実現</li> <li>生徒の活躍の場の設定</li> </ul> <p><b>2. 学力状況の把握と対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の分析と課題克服に向けた授業の工夫</li> <li>個に応じた補充学習の実施</li> </ul> <p><b>3. 教員の授業力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業公開</li> <li>ICTの効果的な活用の推進</li> </ul>	<p><b>1. 感動ある学校行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭、潮鳴祭の充実</li> <li>生徒主体の学校行事</li> </ul> <p><b>2. 部活動等の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動等を通じた人間力の育成</li> <li>得意を伸ばす指導</li> </ul> <p><b>3. あいさつ自慢舞阪</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつで人間関係づくり</li> <li>社会生活に生きるあいさつ</li> <li>健全育成会との連携</li> </ul> <p><b>4. 健康な身体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と連携したアレルギー等への対応</li> <li>要治療生徒ゼロ</li> </ul>	<p><b>1. 命を守る教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育、訓練</li> <li>舞中防災の日</li> <li>性教育・命の講話</li> <li>交通安全指導</li> </ul> <p><b>2. 命の大切さを実感する教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いのちの月間(6月)</li> <li>生徒主体の「いのちを考える集会」</li> <li>いじめ茶だめマン</li> <li>シトラスリボン運動</li> <li>福島ひまわり里親プロジェクト</li> </ul> <p><b>3. 豊かな心の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いのよさを認める活動の推進</li> <li>道徳教育の推進</li> <li>SDGsの推進</li> </ul>

<p>小中一貫教育の推進</p> <p>キャリア教育の推進</p> <p>特色ある教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9年間の学びをつなぐ学習指導と生徒指導</li> <li>年間2回の小中合同研修会の実施</li> <li>キャリアパスポートを活用した9年間の学習計画と実施</li> <li>地域人材を講師とした「キャリア講座」「授業」の設定</li> <li>「キャリア講座」「いのちの教育」</li> </ul>
---	--

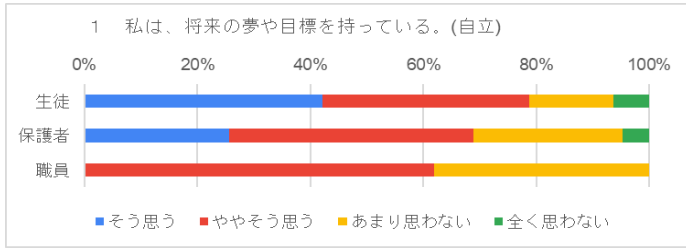
<p>地域・保護者との連携</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域行事への中学生の積極的な参加推奨</li> <li>○CSを軸とした地域との協働・連携</li> <li>○地域・保護者対象の学校公開の実施</li> <li>○学校だよりとブログでの教育活動の公開</li> </ul>

<p>元気な学校・教職員</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○明るいあいさつ、前向きで信頼される教職員</li> <li>○自立し協調性ある専門性の高い教職員</li> <li>○学びあい高めあう「チーム舞阪」</li> <li>○ワークライフバランスを意識した教職員の働き方の推進</li> </ul>

4 自己評価結果及び考察 ※アンケートの文面は、生徒を対象としたもののみ掲載。

(1) 自分や舞阪への誇り

1-R4

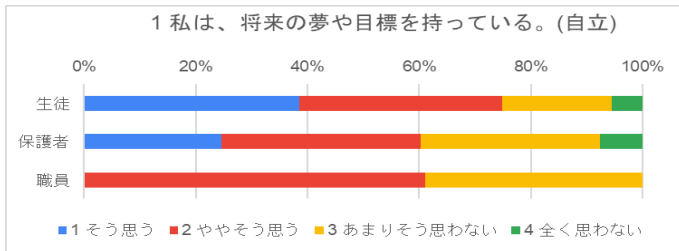


△項目1について、保護者からの評価において、将来の夢や目標を持っていないという割合が、高くなっていた。

→各学年の現状・・・

○3年生 「そう思う」 22人→39人↑  
 「ややそう思う」 25人→19人↓  
 ・2年生 「そう思う」 38人→28人↓  
 「ややそう思う」 28人→35人↑  
 △1年生 昨年の1年生よりも「そう思う」と回答した生徒が約15%減。

1-R5



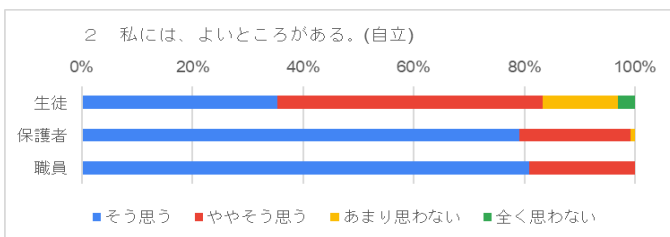
→3年生は、これまでの“生き方教育”を生かして、中学校卒業後の進路選択が具体化しつつあり、昨年度の結果よりも「そう思う」と回答した人数が増加したと考えられる。

→2年生は、今年度、未来授業や職場体験を通して、より具体的な職種や職業観等を理解し始め、自分自身の興味・関心や適性等と照らし合わせながら、自分の生き方を模索している最中と言える。

そのため、1年生の時よりも、「そう思う」と回答した生徒が減少したと考えられる。

→1年生についても、2、3年生の現状をふまえると、学年が上がるにつれ、夢や目標が具体化していく生徒は増えると思われる。今年度、行ってきた“生き方教育”を継続しつつ、変化の激しい世の中に対応した活動内容を設定することも大切だと考える。

2-R4

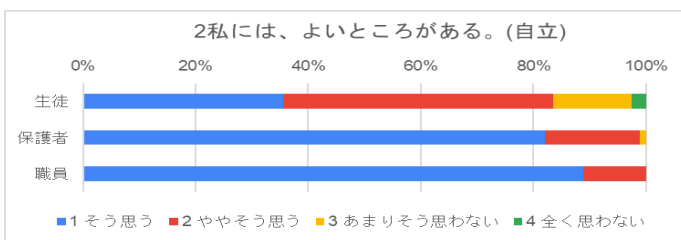


○項目2について、生徒の評価は昨年とほぼ同様だが、保護者や職員では「よいところがある」と評価した割合が伸びていた。

→各学年の現状・・・

◎3年生 「そう思う」と回答した生徒が、昨年度25%から今年度45%と、大幅に伸びた。  
 ・2年生 大きな変化はない。  
 △1年生 昨年の1年生よりも「そう思う」と回答した生徒が約15%減。

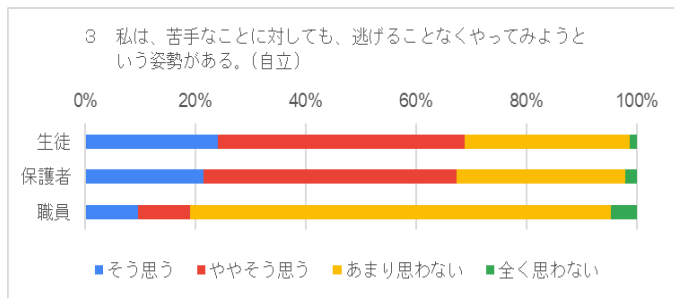
2-R5



→3年生は、結果から自己肯定感や自己有用感の醸成がされてきたと言える。

→1年生は、項目4では、肯定的な評価が高いので、集団の中で育まれる自己有用感の醸成が課題と思われる。

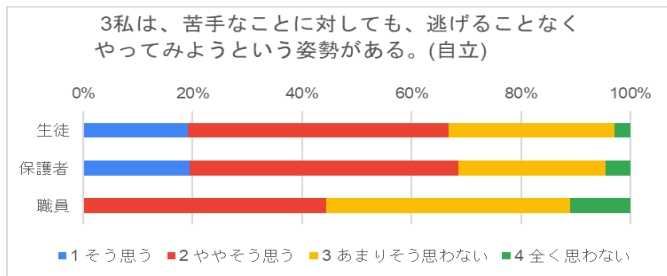
### 3-R4



○3の項目において、職員が「ややそう思う」と評価した割合が2倍以上となっている。生徒のよい現れ、姿が、多く見られるようになったと考えられる。

△しかし、「そう思う」が0%となり、「全く思わない」の割合も増加していた。

### 3-R5

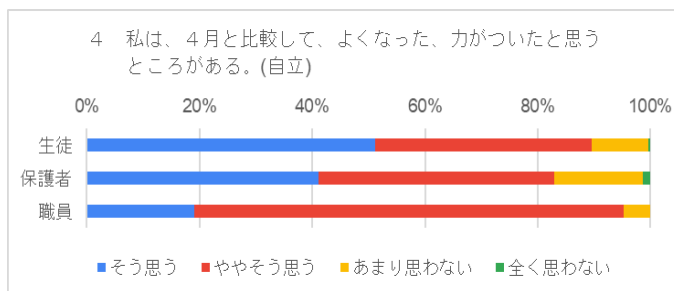


→生徒の状況は・・・

- ・ 3年生 昨年とほぼ同じ。
- △ 2年生 肯定的な回答がやや減少し、「全く思わない」と回答した生徒が増加した。

→今年度から校内研修で重点を置いた課題対応能力の育成については、今後も継続していく必要があると思われる。

### 4-R4

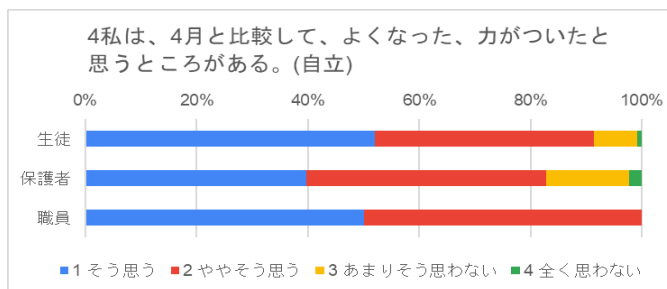


○4の項目において、職員が「そう思う」と評価した割合が2倍以上となっている。この項目についても、生徒のよい現れ、姿が、多く見られるようになったと考えられる。

→各学年の状況は・・・

- ・ 3年生 昨年とほぼ同じ。
- △ 2年生 「そう思う」と回答した生徒が減少。
- ◎ 1年生 「そう思う」と回答した生徒が60%を超えていた。自己肯定感が高いと思われる。

### 4-R5

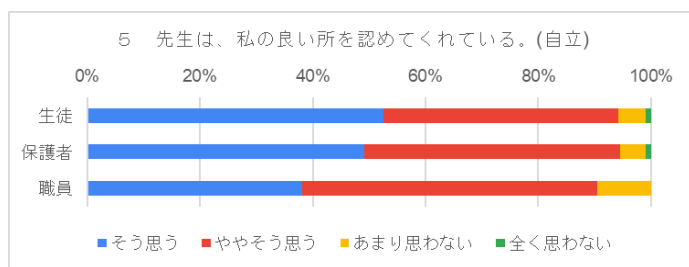


→生徒たちは、自分自身の中で以前の自分と今の自分を比較したり、それらを通して成長を自覚したりすることはよくできている。

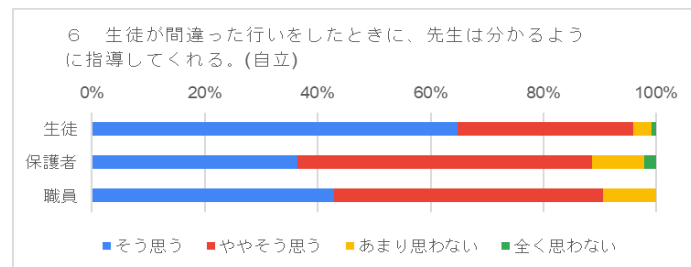
→しかし、項目2で聞かれた他者との比較や共生の中で自覚する「自分のよさ」については、自信をもって“ある”と回答できる生徒が少なくなる。

→保護者や職員が認めている生徒のよいところやよい現れを伝えたり、集団の中で自己有用感を得られるような経験をさせたりするなど、“個に応じた支援”を今後も継続していく必要があると思われる。

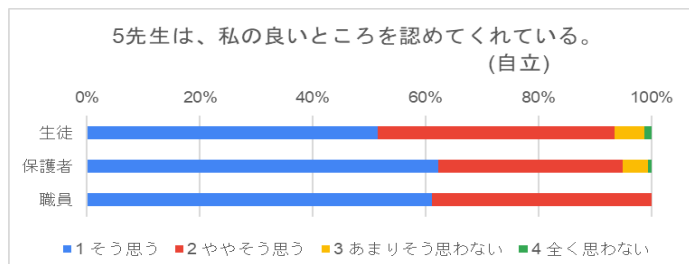
## 5-R4



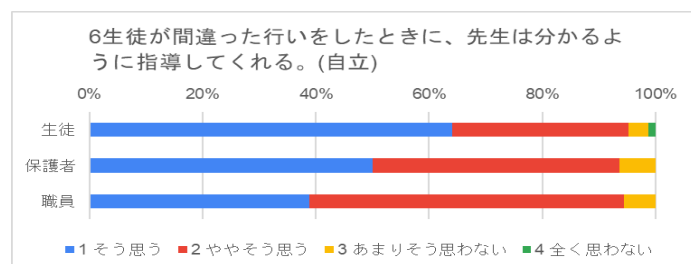
## 6-R4



## 5-R5



## 6-R5



○5、6両方の項目において、保護者の「そう思う」と回答した割合が10%以上高くなっている。

→保護者に教職員の対応や指導内容が理解されているよい傾向である。

→三者面談や電話連絡など、保護者へ対応する際、個々の生徒のよさを教職員が伝えてきた結果であり、**“個に応じた支援”が実りつつある**とも言える。

→各学年の状況・・・

《項目5について》

◎3年生 「そう思う」と回答した生徒が約20%増加

△2年生 「そう思う」が若干減り、「全く思わない」と回答した生徒がいた。

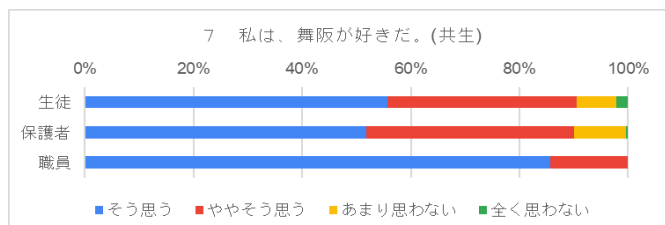
《項目6について》

◎3年生 「そう思う」と回答した生徒が約30%増加。

・2年生 肯定的な回答の割合に大きな変化はないが、「そう思う」と回答した生徒が15%程減少。

・1年生 昨年の1年生とほぼ同様の割合であった。

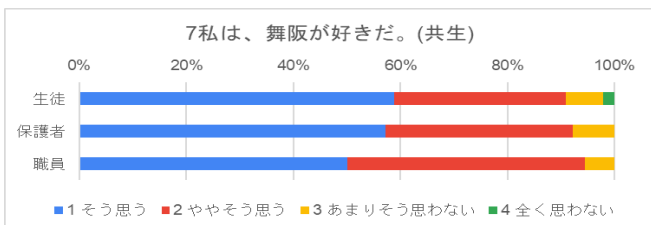
## 7-R4



○1年、3年では「そう思う」と回答した割合が高い。

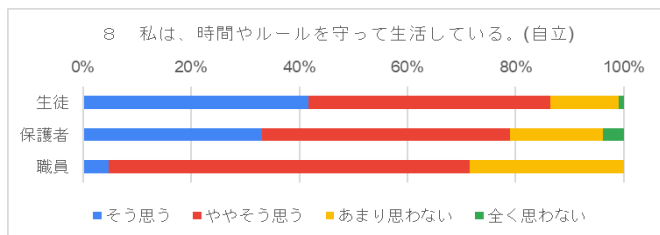
→地域の祭典や夏まつり等が、久しぶりに開催され、それらに自主的に参加している生徒も見られた。

## 7-R5



→学習指導要領の道徳教育の配慮事項にもかかわる事柄として、“生徒が郷土の伝統や文化を大切にし、地域社会の一員としての自覚をもって郷土の発展に努めようとする態度”の育成を、今後も継続していきたい。

## 8-R4



△ 8の項目の保護者の結果で、肯定的な割合が減っていた。

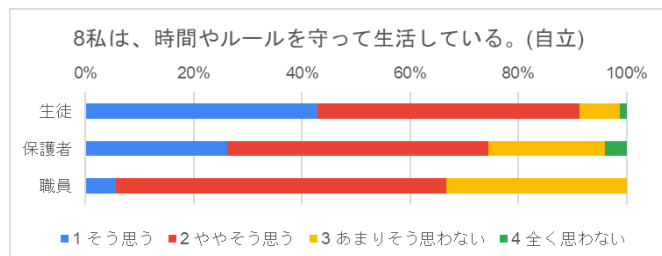
→各学年の状況・・・

○ 3年生 「そう思う」と回答した生徒が15%ほど増加。

○ 2年生 「そう思う」と回答した生徒が10%以上増加。

・ 1年生 昨年の1年生とほぼ同様。

## 8-R5



・ 職員と生徒の評価に大きな差が生じている状況は、昨年と変わりない。

→教職員は、複数の学校に勤務した経験から、他地域との比較のもとに評価をしていると考えられ、社会生活に必要な姿が、生徒が考えているところよりも、さらに高いところにあると思われる。

→気になる現れが見られたときだけ指導をするのではなく、時間やルールを守る必要性や、守っていると見える具体的な姿等について生徒に考えさせ、生徒が自ら行動し、互いに居心地のよい学校をつくっていきけるようにしていきたい。

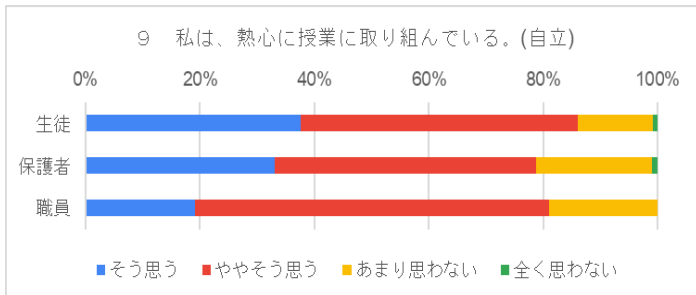
→これらは、今年度、グランドデザインに盛り込んだ「自治能力の育成」にあたる。今後の具体的な手立てを明確にし、継続的に指導をしていく必要があると考える。

## 【改善方策】

- ① 校内研修のテーマは、「未来に向かって主体的に学び続ける生徒の育成」を来年度も継続し、キャリア教育の4つの力のうち、今年度から重点に置いた「課題対応能力」の育成に力を入れる。
- ② 個に応じた支援として、〈2 確かな学力〉と合わせて、学習面での支援の充実を図りたい。
- ③ 自治活動を奨励し、自分たちで自分たちの学校をつくっていく意識を高めたい。

## (2) 確かな学力

### 9-R4



○生徒と職員で肯定的な評価の割合が、少し伸びていた。

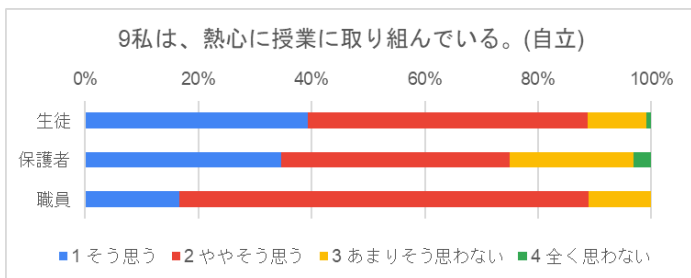
△保護者の肯定的な評価は、減少していた。

→各学年の状況は・・・

○どの学年も、肯定的な評価が80%を超えている。

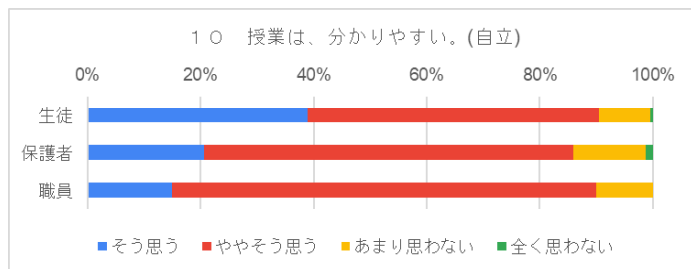
◎3年生 50%の生徒が「そう思う」と回答。

### 9-R5

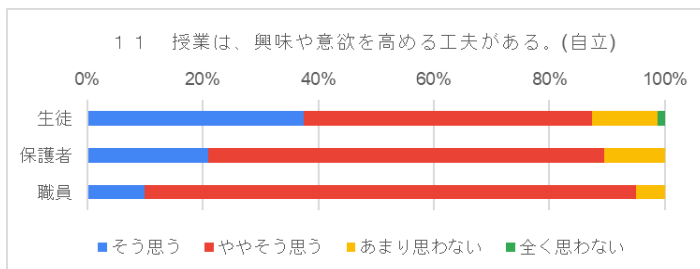


次の3つの項目については、「そう思う」「ややそう思う」という回答が大半を占めた。

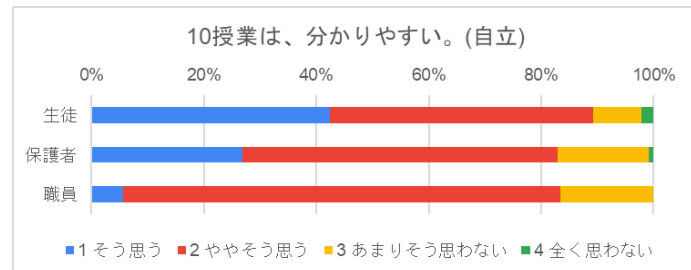
### 10-R4



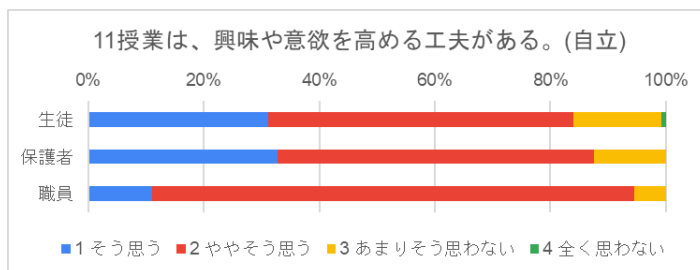
### 11-R4



### 10-R5



### 11-R5



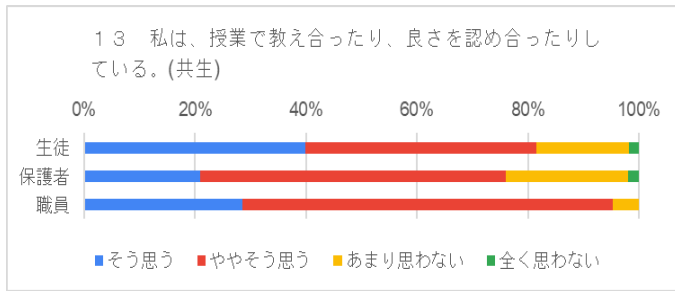
・10、11の項目に関して、生徒については昨年度と大きな変化はない。

△10の項目で、職員の「そう思う」の割合が減っていた。

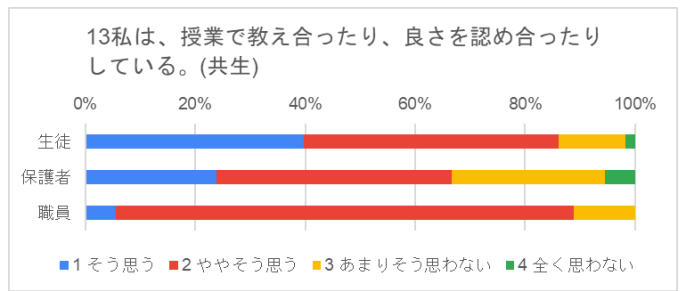
○11の項目で、保護者が、「そう思う」と回答した割合が高くなっていた。



13-R4



13-R5



○保護者や職員に関して、昨年度より肯定的な評価の割合がやや減っているが、生徒、特に2、3年生に関しては、肯定的な回答が10%近く増加している。

→実際に授業を受けている生徒たちの肯定的な回答を励みに、職員は、さらなる授業改善を目指して取り組む必要がある。

しかし、ここで1つ注目すべきデータがある。それは、

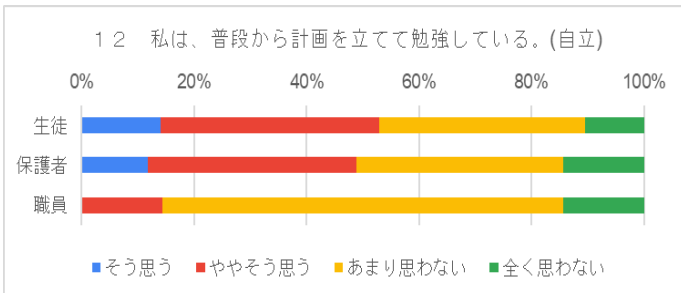
“授業の中身”や“生徒への支援の手だて”にかかわる10、11、13の評価項目は、保護者の3割から4割が「分からない」と回答している事実である。

→保護者に授業公開をする際、授業の様子を分かってもらう工夫も必要だと思われる。

例：興味や意欲を高めるために工夫したことや、教え合ったりよさを認め合ったりする場面をどこに設定したのかななどを、教室入り口に提示する。

そして、確かな学力の定着にむけた本校の1番の課題は、次の評価項目である。

12-R4

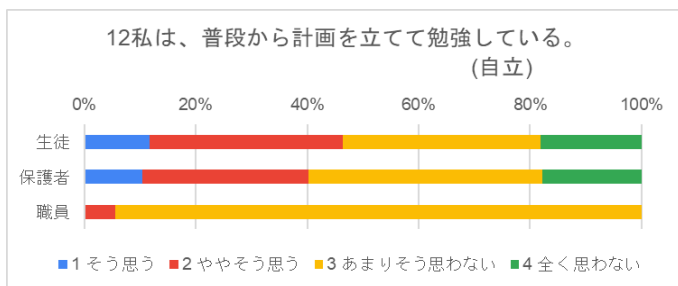


△この項目に関して、生徒、保護者、職員のどの回答も、肯定的な回答が減少した。

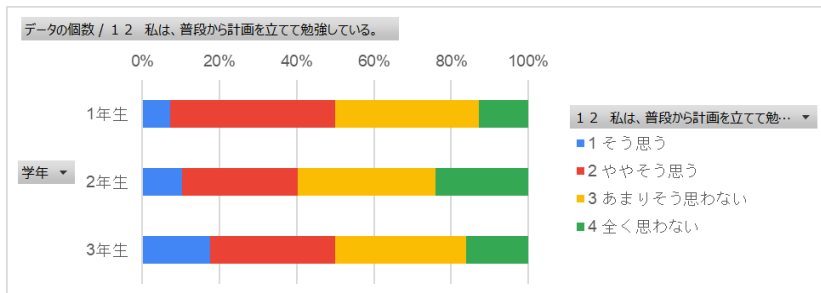
△生徒については、どの学年も、昨年よりも「計画を立ててやっていない」(あまりそう思わないも含む)と回答している割合が、増加していた。

→この項目は、数年、継続して課題となっている。具体的な対策を講じることが、必須である。

12-R5



学年別生徒の回答は、以下の通りであった。



○学年が上がるにつれ、「そう思う」の割合は増加している。

△進路選択を間近にしている3年生でも、肯定的な回答が半分である。

→確かな学力の定着は、たくましく、よりよい人生を自分たちで切り拓くための基盤となる。  
項目1で、多くの生徒が“夢や目標がある”と答えている。それらの実現にむけても、今以上の学力の定着を図りたい。

【改善方策】

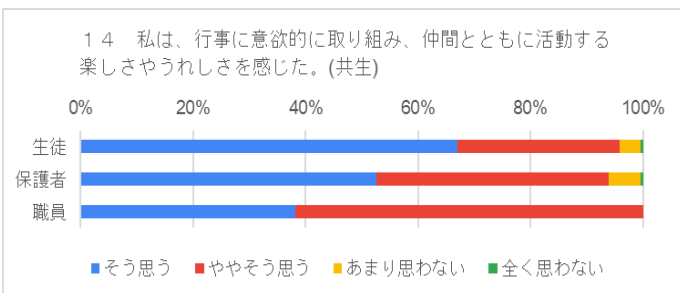
- ① 家庭学習の習慣をつける第一歩として、毎週水曜日にタブレットを持ち帰らせ、「ドリルパーク」に取り組ませる。
  - ・教科や内容、難易度をその都度指定したり、生徒に選択させたりしながら、学習内容の定着を図っていききたい。
- ② 勉強の仕方が分からない生徒への対応として、次のような取組を考えている。
  - ・テスト前に生徒自身がどのようなことをやるとよいのかを具体的に示し、勉強計画表に to do リスト形式で記入させる。
  - ・先輩から後輩へ、勉強方法を伝える機会を設定する。
  - ・ワークブックなど、各教科の提出課題に対する評価方法を工夫し、生徒の学習方法の工夫につなげる。

例：記入内容や取組の丁寧さだけでなく、2回通り解いていたたり、付箋にポイントをまとめて貼っていたりする状況を奨励するなど。

(3) 元気な学校

【自己評価アンケートの結果と考察】

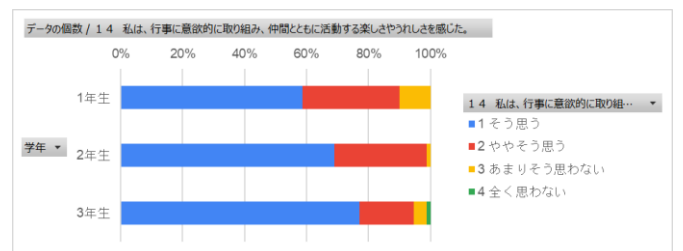
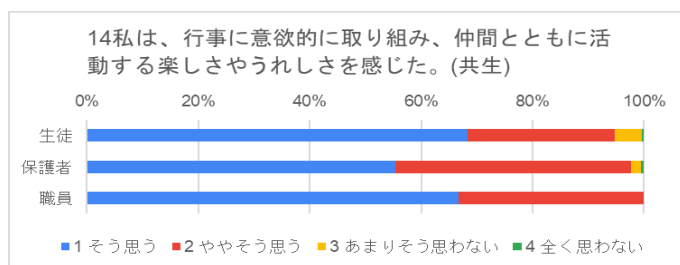
14-R4



○14の項目において、2、3年生共に、「そう思う」と回答した割合が、昨年度より増加していた。

→学年が上がるにつれ、行事の内容やよさが分かり、集団をリードしたり、企画運営をしたりする機会が増え、取組に充実感や達成感が高まるからだと考えられる。

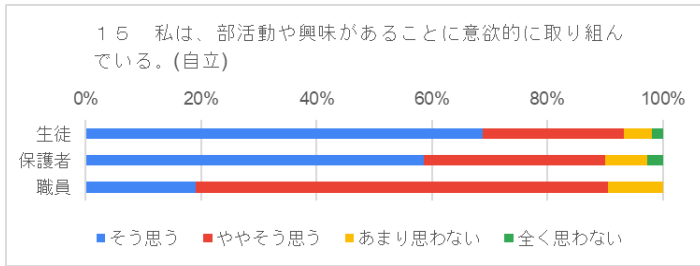
14-R5



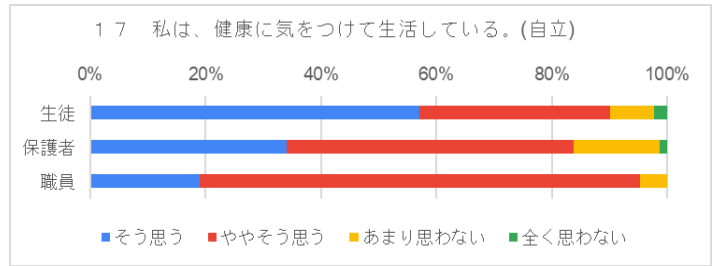


次の2つの項目は、昨年度と大きな変化は見られなかった。

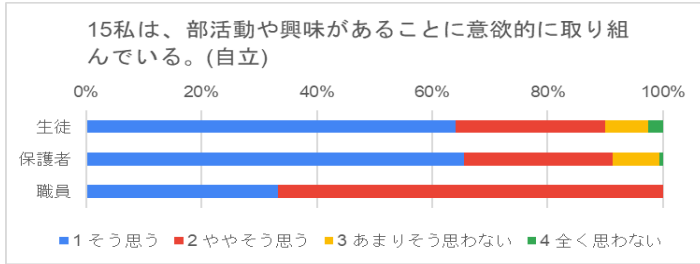
15-R4



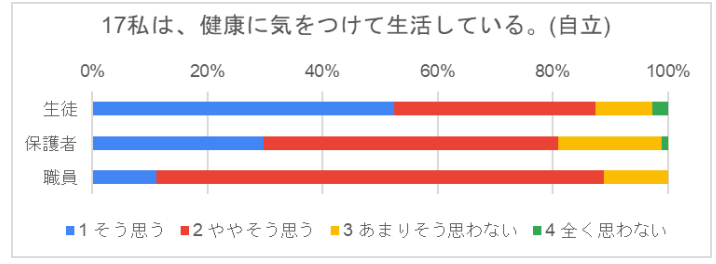
17-R5



15-R5

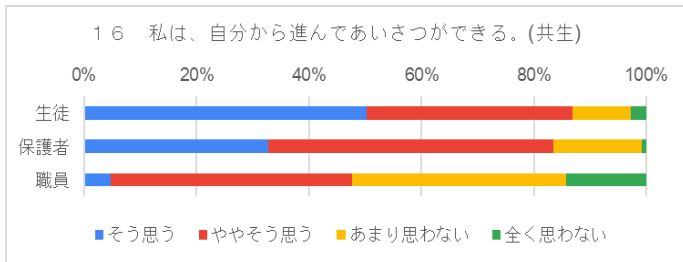


17-R5

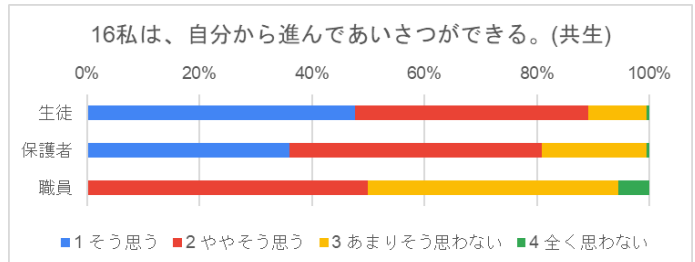


次のあいさつについては、職員や学校運営協議会で、もう少しできたらとよく課題にあがる。

16-R4



16-R5



△結果から、生徒と保護者の評価と、職員の評価に大きな差が生じていることが分かる。  
 →両者の認識の違いを近づけるために、あいさつができていない状態の具体的な姿を提示する等の対策を講じるとともに、自治能力の育成とも関連づけて指導していきたい。

【改善方策】

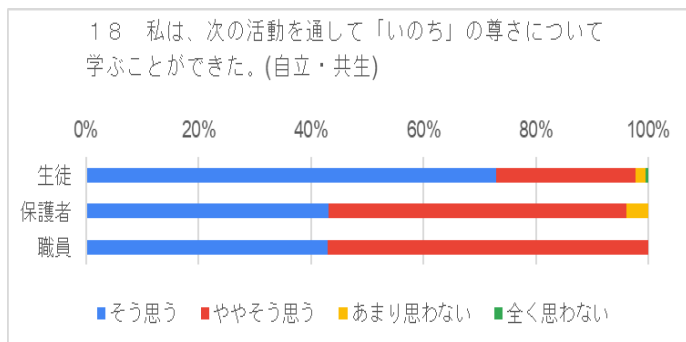
- ・〈3 元気な学校〉にかかわる取り組みは、今年度の活動を継続していく。
- ・あいさつについては、教職員が積極的に声をかけながら、「マナー講座」や「未来授業」などを利用し、“社会生活に生きるあいさつ”として、その必要性を投げかけたい。また、生活安全委員会等、生徒会の活動と連携した取組を推進していきたい。

#### (4)いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

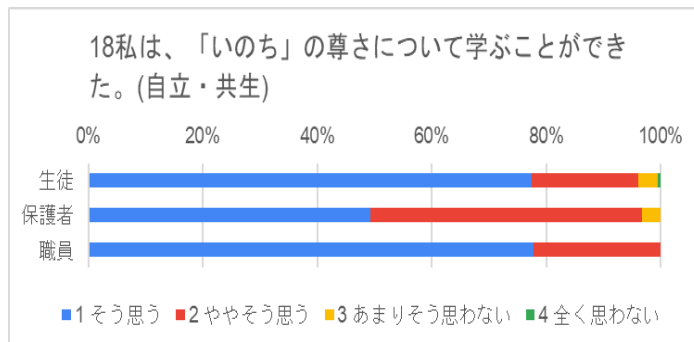
項目18と20から、生徒たちの大半は、「いのち」の尊さについてよく学び、いじめはどんな理由があってもいけないと理解していることが分かる。

しかし、「そう思う」と回答した割合は、生徒と職員が高く、保護者はそこまで高くないという、共通点が見られた。

##### 18-R4

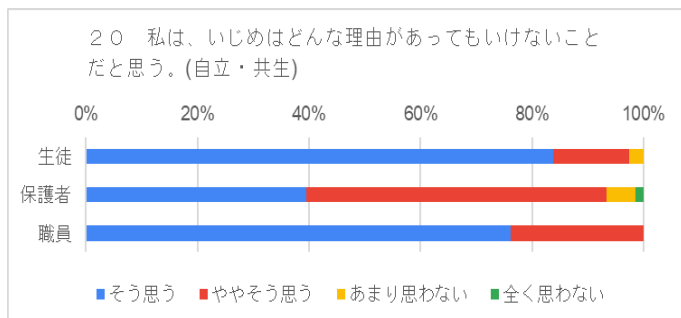


##### 18-R5

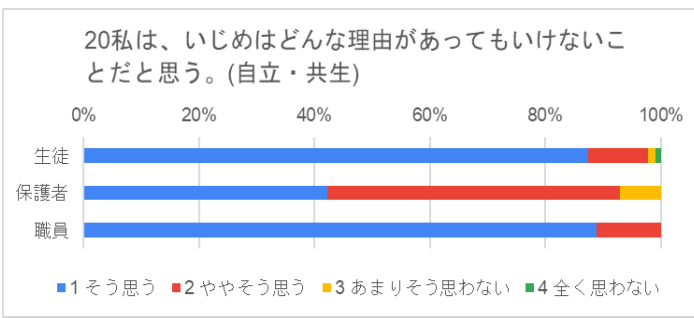


※上記18の「次の活動」とは、いのちについて考える集会や心の教育講座、防災訓練等。

##### 20-R4



##### 20-R5



※項目20の保護者と職員は、「学校(自分)はいじめを許さない学校づくりをしようとしている」という内容。

△項目20については、「そう思う」以外の回答をしている生徒の言動に注視するとともに、心の内に秘めている思いに寄り添いながら、今後も継続して、いじめはいけないことを指導していきたい。

○項目20について、保護者の「そう思う」という割合が、昨年よりも少し増えた。

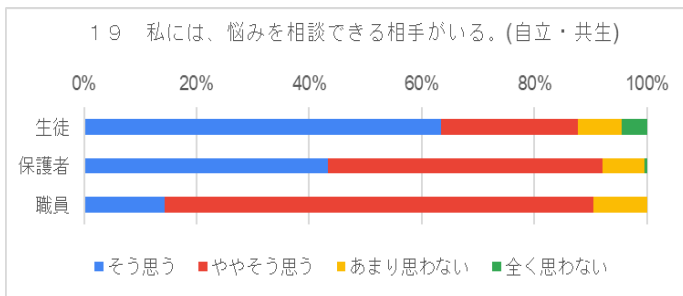
△しかし、「分からない」と回答している割合は、昨年度よりも増加し、2割であった。

→次のような手だてを講じ、さらに学校の取組を知ってもらう必要がある。

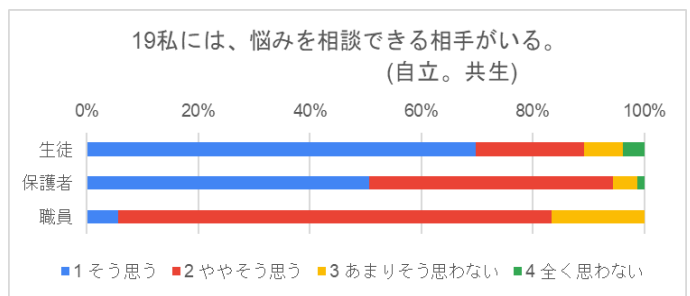
- ・学校だよりやブログを通じた取組の発信の継続。
- ・項目18に関連した活動を通じた生徒たちの学びを参観してもらう機会の設定。

→学校の取組を保護者に理解してもらうことで、生徒に心配される言動があった際、保護者との連携もスムーズにとれ、より安心・安全な学校づくりにつながると考える。

## 19-R4

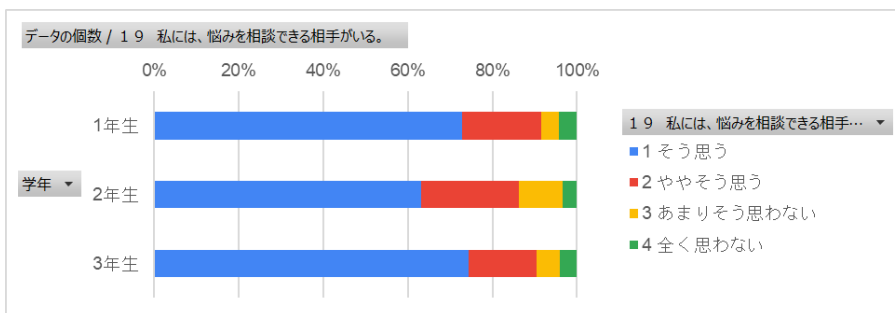


## 19-R5



○項目 19 については、職員が思っている以上に、生徒には相談できる相手がいるようだ。  
→ただ、昨年度と同じ割合の生徒が「あまりそう思わない」「全く思わない」と回答しているため、それらの生徒に寄り添う姿勢は、今後も大切にする必要がある。

以下が、学年別の状況である。



### 〈令和5年度いじめ防止基本方針に対する取組〉

年間指導計画に沿って実施した。主な取組は、以下の通り。

- ・ 浜松市の方針を受けて、昨年度末に作成した舞阪中学校版「いじめ防止基本方針」を、年度初めに新しい教職員で再確認を行った。
- ・ 校内での生徒理解研修の他、舞阪小学校との夏季小中合同研修会において、浜松市教育委員会より生徒指導担当指導主事を招聘し、「いじめ事例研修」を実施した。
- ・ 生徒の様子をつかんだり、生徒・保護者からの相談を受けたりする機会として、昨年度から継続して、以下のことを実施した。
  - 生徒への生活アンケート 年3回  
(うち2回は、市教委と連携をしてタブレット持ち帰りによるアンケートを実施 →アンケートに回答すると、即座に集計され、迅速な対応につながった。)
  - 三者面談 1学期末と2学期末
  - 希望制面談 年度初めと年度終わり
  - スクールカウンセラー等の活用と連携
- ・ 今年度も、6月を「いのちについて考える月間」と位置づけ、以下のことに取り組んだ。
  - 校長講話
  - 命にかかわる教材による道徳の授業
  - 「いのちを考える集会」と「私のハート」(生徒会本部・保健体育委員会主催)

## 【改善方策】

- ① 防災訓練の見直しを行う。実施後に職員の振り返りを行い、次の訓練を改善して行う。
  - 予想される災害を想定した避難訓練を実施する。
    - 例：生徒に予告しない訓練、授業中の訓練、余震を想定した訓練、  
地域と連携した防災活動 など
  - 年度当初に「職員の防災研修」を実施する。
    - ・ 生徒の避難訓練を実施する前に、避難の仕方や救命胴衣の保管場所、防災倉庫等の確認を行う。
  
- ② 授業参観会で道徳の授業を公開する。
  - ・ ブログや学校だよりでの発信の他、命の大切さやいじめに関する道徳の授業を公開することで、保護者の方に中学校の取組を知ってもらう機会とする。

## 5 学校関係者評価

2月22日（木）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

### (2) 確かな学力

- ・ タブレットの持ち帰りは、紛失や破損などが心配される。
- ・ 持ち帰るのであれば、セキュリティをしっかりと行う必要がある。
- ・ ネットワーク環境が整っていない家庭の生徒への対応を考えてほしい。

### (3) 元気な学校

- ・ あいさつについては、このようなアンケートの結果ばかり注目するのではなく、実際の生徒の姿でよいところやできたことを褒めて行ってほしい。

### (4) いのちの教育：いじめ防止基本方針に対する取組について

#### ① 防災教育について

- ・ 想定できないことを想定した訓練をすることにより、課題解決の対応能力が養われる。
- ・ 実際の避難生活は、どのようなリスクを伴うのか、災害のリスクを事前に理解していることが、実際に災害が起きた時の対応につながる。
- ・ 中学生のように分かっているならば動くことができる人材が地域にいと、すぐに動くことができない幼い子供や高齢者等をリードすることができると期待している。

#### ② いじめ防止について

- ・ 保護者の方へ、学校の取組を語っていくことは大切だと思う。そのための、道徳の授業の公開は、よい機会である。
- ・ 舞阪中学校は、学校が明るく、よい雰囲気だと思う。  
そのため、いじめはないだろうと思っている保護者も多く、いじめがある現状に気づけていないのではないかと。また、表向きよい雰囲気とを感じるが、見えないところでいじめにつながっていることもあるのではないかと。
- ・ まわりに支える人や悩みを相談できる人がいることで、安心した学校生活を送ることができると思う。

## 6 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

### (2) 確かな学力

- ・ タブレットの持ち帰りについて、事前に家庭で使用する際のルールを指導する。
- ・ ネットワーク環境の状況を確認し、タブレットの使用ができない生徒には、紙媒体での課題に取り組みさせるなど、柔軟に対応する。

### (3) 元気な学校

- ・ あいさつについては、教職員が生徒に声掛けをした際、よいあいさつができた生徒には、その場で奨励するように努める。

(4) いのちの教育:いじめ防止基本方針に対する取組について

①防災教育について

- ・具体的な災害の場面を設定した避難訓練を行う。その際、生徒にどのように行動するとよいのかを考えさせてから訓練を行うなど、避難訓練の方法を工夫する。
- ・「中学生が地域を支える人材である」という自覚をもたせるためにも、自治会や舞阪支所、小学校と連携した防災教育を模索する。

②いじめ防止について

- ・道徳の授業を公開するとともに、いじめ防止につながる学校の取組がわかる掲示をしたり、学年・学級懇談会でその取組を紹介したりして、保護者に発信をしていく。
- ・生活アンケートや三者面談など、今後も生徒に寄り添った生徒指導を継続していく。

以上の改善方策に基づき、次年度、本校の教育活動が充実するように努めていきたい。